

1月 定例会

プラスチックごみの現状

2019.2.6 地球環境に学ぶサークル 中島峯生 記

今までの持寄り学習で紹介された新聞等の切抜きを整理し、現状の廃プラの状況をまとめました。

1. 脱プラ訴える壁



海に流出したプラごみの自然
分解されるまでの時間
(米海洋大気庁資料予想値)

レジ袋	20年
発泡スチロール	50年
ペットボトル	450年
釣り糸	600年

読売新聞 2018年12月10日夕刊、東京都大田区東港金属敷地内(写真) 昨年までは毎月約200トンを中国に輸出していた。中国が輸入規制したため業者の在庫量は急増して処理が追い付かない。

「今まで中国に運ぶだけで良かったごみの出し方を、考え直す時がきている」国際的に廃プラによる環境汚染が問題となり、国内でも脱プラスチック社会を目指す動きが広がりを見せている。

2. プラごみ撲滅の戦い、回収と予防 美しい海を守る

読売新聞 2019年1月6日、地球上の面積の約7割を占める海洋が、今、人類による汚染の危機にさらされている。海の生態系にも影響を与えるプラスチックごみの撲滅を目指す試みが注目されている。

- ①「太平洋ごみベルト」米国本土とハワイ沖の間との海域、面積は日本の4倍以上になる。そこにジャンボ500機分、約8万トンのプラスチックごみが漂う。オランダの非営利組織「オーシャン・クリーンアップ」は半減を目指して長さ600mの網で、海面に浮かぶプラごみを回収する。今後、この装置を60台投入する予定。
- ②スラット氏NPOを設立回収装置の開発、北海で試し「地球大賞」授賞した。
- ③フランスのNPOごみの回収や分類を行う全長70mの「海洋清掃ボート」を投入する。
- ④カナダのNPO海中で回収するロボットの開発に取り組む。
- ⑤出さない試み バリ島 新興企業アバニ プラスチック製品の代替キャッサバ芋の澱粉を使用する

海に流出したプラごみの量、毎年 800 万トン、1 位・中国(350 万トン)、2 位・インドネシア、3 位・フィリピン、4 位・ベトナム、5 位・スリランカ、20 位・米国、30 位・日本；(米大学研究者 2015 年報告を基 10 年の推計)

3. 廃プラ根絶物語 日本経済新聞 2018 年 10 月 5 日、市民大学資料、東京農工大学高田秀重教授 東京湾の汚染実態、16 年間調査結果 海底から 10~15cm の深さで泥 1kg 当たり直径 5mm 以下のマイクロプラスチック 5000 個以上もたまってた。プラスチックは人間が生きた地層の化石になりつつある。プラスチックは周辺海水中から汚染物質（化学物質）を吸着する。汚染濃度は周辺海水中の 10 万~100 万倍で生物が取込んだ化学物質は生物組織に移行蓄積する。
「今、市民ができること、プラスチック、特に使い捨てのものの使用を極力避ける、断る」

4. プラ再利用は 7 割は焼却~「温暖化が進行」懸念 読売新聞 2018 年 12 月 2 日読売新聞 製品に再生は 27%、プラスチック循環利用協会によると プラごみの処理全体の 84%リサイクル、単純な焼却 9%、残埋立てられている。リサイクルの 68%は熱回収「サーマル・リサイクル」、製品に再生する「マテリアル・リサイクル」27%、ドイツ、ベルギー等欧州では進んでいる。

1. リサイクル 84%	1.1 熱回収「サーマル・リサイクル」 68%
	1.2 製品に再生「マテリアル・リサイクル」 27%
2. 単純な焼却 9%	
3. 埋立て 残 7%	

佐賀市はごみ焼却による排ガスから二酸化炭素だけを回収する設備が 2016 年から稼働している。二酸化炭素を 100%回収可能だが需用がないため約 2.5% (5 トン/日) 藻類を培養している。

5. 東南アジアごみ処理急増：2019 年 1 月 22 日読売新聞 日本企業 焼却施設輸出へ中国と受注競争 現状は都市ごみを一個所に集めて野積みになっている。ごみの山は、最大 35m の高さになる。

6. プラごみ削減合意目指す、2019 年 1 月 23 日読売新聞 安倍首相、ダボス会議（2019 年 1 月 23 日）の基調講演で、2019 年 6 月大阪で開かれる G20 で深刻化するプラスチックごみの削減のための国際合意を目指す考えを表明する。

7. 国際的には予防原則に基づく対応がとられている。 高田教授資料

- ①2015 年 12 月 アメリカでマイクロビーズ配合禁止の連邦法成立
- ②2014 年 8 月 米カリフォルニア州でレジ袋禁止の法案成立
- ③2014 年 11 月 EU が加盟国へレジ袋削減案策定を義務づけ、2025 年までに一人 1 年 40 枚まで削減
- ④2016 年 イギリスでレジ袋課税
- ⑤世界 20 カ国以上でレジ袋規制されている。
ポリエチレン：汚染物質を吸着し易い。軽く薄いので遠くまで運ばれる。
- ⑥2014 年 3 月 米サンフランシスコ市 ペットボトルでの飲料水の販売禁止
- ⑦2016 年 9 月 フランス「プラスチック製使い捨て容器や食器を禁止する法律」成立 2020 年より

